

地域に開かれた対話の場をつくる

—京都府立図書館「みんなのがん教室」実践報告—

山下ユミ、島村聡明、横山知尋
京都府立図書館

【はじめに】

がん患者やその家族にとって、病院での情報へのアクセスには心理的な障壁が伴うことが多い。そのため、中立的で誰もがアクセスしやすい公共図書館において情報提供を行う意義は大きい。京都府立図書館では2024年から健康情報に関する講座を実施してきたが、2025年度は国立がん研究センターの助成を受け、大学病院等と連携した新たな情報提供の場づくりを試みた。

【方法】

全4回の「みんなのがん教室」を開催した。各回において、専門家による講義、関連図書・パンフレットの展示、および参加者との対話を組み合わせた構成で実施した。すべての講座は会場で実施したが、第3回はライブ配信を実施し、第1・2・4回は後日一部の動画を配信した。

【結果】

全4回で延べ87名が参加した。「身内ががんに罹患したばかりで知識がない」といった、病院の相談支援センターへ行くことをためらう参加者など、病院で本格的な情報収集を行う前の段階にある層へアプローチすることができた。また、参加者からは「温かく参加しやすい雰囲気」が高く評価された。さらに、本講座での対話が契機となり、がん相談支援センターの認知度向上、地域コミュニティ間の交流促進、およびがん患者・家族会への橋渡しといった具体的な成果が得られた。

令和7年度 京都府立図書館「みんなのがん教室2025」の実施状況

	タイトル	講師	日程	参加人数
第1回	「がんになっても自分らしく生きよう」	小口浩美氏、彦田かな子氏、大島直也氏(一般社団法人LINKOSがん教育講師)	2025年10月25日(土)	25名
第2回	「健康に関して信頼できる情報を探そう・見極めよう」	北澤京子氏(医療ジャーナリスト)、岡林里枝氏(京都大学 環境安全保健機構)	2025年11月18日(火)	20名
第3回	「からだ・こころ・くらしの整え方～看護師・臨床心理士・社会福祉士と話してみませんか?～」	里見志穂氏(臨床心理士)、関口由紀子氏(社会福祉士)、酒井慈水氏(看護師)	2025年12月21日(日)	20名 (内オンライン4名)
第4回	「納得して治療や旅立ちを決める～生きる基軸を立てようじゃありませんか～」	佐藤恵子氏(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 特任准教授)	2026年2月28日(土)	22名

【考察】

専門家との対話を取り入れた公共図書館のプログラムは、がん情報に対する市民の心理的ハードルを下げ、適切な支援への接続に有効であることが示唆された。